

会 議 録

I. 附属機関等の会議の名称

令和7年度 第2回 松川町地域公共交通対策協議会

II. 開催日時

令和8年1月14日（水） 午前9時30分～10時30分

III. 開催場所

松川町役場 大会議室

IV. 出席者氏名

《委員》

北沢秀公会長 水野一昭副会長 藤澤洋二委員（代理/堀内郁勇） 片桐実委員（代理/片桐博）
菅沼文弘委員 清水祐一委員 井澤弘幸委員 細田勉委員 岩下秀樹委員（代理/高橋正俊）
依田俊彦委員（代理/錢坂啓太郎） 有吉拓人委員 中村昌彦委員 塩倉智文委員
西浦素之委員 鈴木正満委員

[欠席：山岸康範委員 原節子委員 折井克壽委員]

《事務局》

黒澤哲郎幹事長 松尾天事務局長 大橋良平事務局員 元木ともみ事務局員

V. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

VI. 傍聴人の数

6人

VII. 協議事項（公開）

- (1) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について（資料1）
- (2) 地域交通確保維持改善事業（バリアフリー化設備等整備事業）の事業評価について（資料2）

VIII. その他

令和8年度に向けた運行改善の方向性について（資料3）

IX. 会議資料の名称

次第及びVIIに係る資料

X. 審議の概要

1. 開会（松尾事務局長）

2. 会長挨拶（北沢町長）

〈事務局より説明〉

協議会規約第7条により会長が議長となる。

また、委員18名中11名の出席、代理出席による委任状4名提出により本会議は成立する。

3. 協議事項

(1) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について（資料1）

〈事務局より説明〉

委員からの同意のうえ、事業評価（事業実施の適切性及び目標・効果達成状況）については資料1のとおりとなる。

※質疑・意見なし

【令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について承認】

(2) 地域交通確保維持改善事業（バリアフリー化設備等整備事業）の事業評価について（資料2）

〈事務局より説明〉

委員：ユニバーサルデザインタクシーを導入したということだが、導入後の配車回数、実績値を教えてほしい。年間どのくらいの利用があるのか。

委員：ユニバーサルデザインタクシーは、福祉でも通常の利用でも活用できるということで導入している。通常のタクシーとして走らせておいて、福祉の対応が生じた際に福祉の車両として運行しているため、実績値は正確な数字を出すことが難しい。

【地域交通確保維持改善事業（バリアフリー化設備等整備事業）の事業評価について承認】

4. その他

令和8年度に向けた運行改善の方向性について（資料3）

〈事務局より説明〉

委員：大型バスの車両更新について、部奈の中を大型バスが走るというのは現実的でない。道が大変狭いので、特に混み合う朝と夕方にそのバスを走らせると、すれ違いができない。その辺りについてどう対策をとっていくのか。福与部奈線の工事の話があるが、もし迂回するとなると大型バスは通れない。この辺りはどうか。

事務局：部奈線の利用者はピーク時には1台に20人弱が乗車する。現在走っているバスの定員が28名であるので、サイズダウンは難しい。当面の間は現在のサイズのバスを走らせる予定。

委員：部奈線は乗車人数的に現行のサイズがギリギリ。今の部奈線の車両は故障すると修理に時間を要することから、今回の車両更新をお願いしているところ。

委員：福与部奈線の拡幅工事について事業化するために動いている。令和8年度以降に着手の予定。工事期間中については通行止めになってしまうため、その際は旧道が迂回路になる。現在のバスは運行できるが大型になると難しいため、その辺りはまた関係部署と調整する。

事務局：福与部奈線の工事についてはまた具体的なスケジュールが見えてきたら調整、協議する。車両を見直すのか、そもそも運行ルートを見直すのか、やり方が複数あるため、そ

れも含めて検討していきたい。

委員：乗務員として提案がある。まず、利便性の観点から、フルーツバスの大島上片桐通学便の停留所について、清流苑の近くの神社にバス停を作るのはどうか。フリー降車区間になっているため、帰りにその神社で降りる子どもが3～4人いる。朝もそこから乗れるようになると利用者にとって良いのでは。そこで降りるということは、その神社付近に子どもがいるということ。地区の方とぜひ話をしていただきたい。

次に、チョイソコの関係で、高校生の下校が早い日などに需要があるのではないか。運行開始当初はお年寄りのためというイメージも強かったが、最近では実際に高校生の利用者も増えてきているので、高校生の利用も増やしていけるようなPRができれば良いように思う。チョイソコなら駅から自宅まで帰ることができることをPRするなどすれば、もっと利用が伸びるのでは。

事務局：まずは上片桐大島通学便の停留所については、地元要望でいただいた方がこちらとしても動きやすい。ただ、確かにこの区間は停留所が少なく、またフルーツバスでは清流苑までいかないため、神社が清流苑に近いこともあるので需要があるように思う。そういった部分も絡めて検討をしていきたい。

チョイソコに関してはおっしゃる通り。お子さんの利用で多いのは部奈。部奈の子どもたちは通学でバスを使ってくれていることもあり、公共交通を使うという意識が根付いているのか、よく利用してくれている。距離的なものを見れば、部奈だけでなく、大島であったり、上片桐であったり、他地区も同じ。高校生たちの利用を促進できるようなPRを行ってまいりたい。

委員：チョイソコがだいが浸透してきているため、昼間の高齢者のタクシー需要がチョイソコに奪われてしまっている。賃金もかなり上昇しており、非常に厳しい状況が続いている。そんな中で、夕方以降の子育て送迎支援という、新たな需要に期待しているところ。去年の2月に熊本市のチョイソコくまもとキッズを視察させてもらった。夕方の子育て送迎をタクシー車両でやらせていただきたいと考えている。今のままでは経営が本当に厳しい。令和8年度でチョイソコの子育て送迎を実施していただけないか。また、委員の皆さまで何か送迎の関係でお手伝いできることがあればぜひお声がけいただきたい。

事務局：子育て送迎支援は事務局の中でも構想としてあがっている。それに関しては、やはり地元の交通事業者の皆さまのご協力なしには成し得ない。伊那バスには夕方の時間はフルーツバスを運行していただいているため、チョイソコの子育て送迎に関しては丸茂へお願いしたいと考えている。ただし、財源の問題もあるため、子育て送迎に関しては実証運行みたいなどころからスタートしていきたい。委員ではないが、システム事業者である長野トヨタにも本日来ていただいている。情報共有しながら、検討を深めてまいりたい。

委員：時間延長はどうか。チョイソコを利用してみたいと考えているが、利用できる時間が限られているため、実質子どもとお年寄りしか利用できない。商店街の活性化の観点から見ても、時間延長すれば需要も広がるのでは。

事務局：商店街の活性化や地元産業の支援という観点でみると夕方から夜にかけての時間延長をして、飲食店集積地への送迎をチョイソコが担うという考えもあるが、タクシー事業者さんからするとこのゴールデンタイムの需要を食ってしまうということにな

る。なかなかさじ加減が難しいということもあるため、新たなニーズということで子育て送迎支援に踏み込めないかと検討しているところ。チョイソコは大人の方も、町外の方も利用したいという声も出ている。公共交通のバランスを見ながら検討を進めてまいりたい。

事務局：補足すると、時間延長についてはご提案のとおりであると思う。しかしながら、あくまで行政が運営している公共交通であるため、民間事業者を圧迫してはいけないということもある。そのことを踏まえながら、どこが需要として広げられる部分なのかをしっかりと検討して進めてまいりたい。

委員：南信州全体で見ると、限られたリソースの中でどれだけ効率よく運行することができるかというのが一番の課題として挙がる。利便性を高めるのも重要で、当然並行して考えていかなければならないが、午後の時間帯は比較的暇な時間も出てくるのではないか。例えば午前中に予約が集中しているのであれば、午後の時間に分散するとか、そういったことをしていくべきでは。病院の予約は難しいにしても、介護の方であれば集団でクラブに行きましょとか、その時間を午後にするとか、福祉施策と絡めて展開すれば午後の時間も効率よくまわせるのでは。買い物も午後の時間帯に集団で行くとか、そういったことをすれば時間帯の乗車人数、乗り合い率もまた伸びるのではないか。また、今の話で若年層をターゲットにという話が出ているが、今後高齢者の需要はこれ以上伸びないという認識か。

事務局：現在4台で運行しているが、すべての時間帯を4台で運行しているということではない。特に伊那バスに関してはフルーツバスの運行があるため、15時には撤退している。乗車人数に偏りがあるわけではない。4台運行している時間帯の利用客が比較的に少ないということも課題であったが、フリースクールの送迎などにも取り組み、乗車人数のバランスをとっているということもある。ただ、今ご提案いただいたように、集団で買い物に行くなど、デマンド本来の乗り合い率を高めるということにも踏み込めるので、そのような取り組みも順次行ってまいりたい。

高齢者の層に関してはもちろんまだ需要があると考えている。今年度は高齢者のアプローチが弱かったことも反省としてある。介護保険や後期高齢者医療制度の説明会などでチョイソコの説明はしているが、社協のクラブなどでもチョイソコを説明するなど、高齢者の方のお出かけでも今一度存在感を高めていく取り組みを来年度に行ってまいりたいと考えている。

委員：チョイソコというサービス自体が小規模輸送ということになるが、運転手は充足しているという考え方で良いか。デマンドの輸送人員をどんどん増やすということになると、運転手のリソースが充足していないとそもそも難しい。しかし、財源的もドライバーを増やすのは難しいのでは。事務局的には今の状況でさらに輸送人員を増やすことは可能という認識か。

事務局：現状の乗り合い率は1台につき1.2人と少ない。ここを1.5～1.6人にしたいと考えている。そのため、割合を高めるという部分において、輸送人員を拡充していきたいと考えている。

委員：チョイソコの乗り合い率が非常に低いのでタクシーとほぼ変わらないのが課題。ただ、決してドライバーも充足しているわけではない。乗り合い率を高めることと、ドライバーのリソースの問題、両者を天秤にかけながら、慎重に議論していきたい。

委員：保健福祉課では来年度から町の総合健診については下伊那赤十字病院でおこなうことになっている。週に3回、午後8人くらいの健診が入ってくるようになるので、午後の利用という観点ではここも需要があるのではないかな。

事務局：確かにそこもチョイソコが入り込める余地がある。ぜひ連携させていただきたい。

副会長：利用される方にぜひPRして、登録者を増やして、ということを我々とも連携して行っていきたい、考えていきたいと考えている。町と一緒にチョイソコの利用促進について頑張っていきたい。

事務局：運行開始当初は社協にもよく顔を出していたが、最近は正直なところあまりできていない。この辺りの連携も強化してまいりたい。

委員：高速バスのみずずハイウェイバスについて、今年度の第1回の時もお話したが、利用者についてあまり回復していないのが現状。来年度も県の予算をとって運行および利用促進について継続していく予定。引き続き、利用はもちろん、利用促進についてもご協力いただきたい。

5. 閉会（松尾事務局長）